



広告 企画・制作 読売新聞社広告局 協力 ジンマーバイオメット

先生、教えて！

元気な「ひざ」で健康長寿

# 人工関節

健康で自立した生活を送るために必要な「ひざ関節の健康」。高齢者を悩ませる「変形性ひざ関節症」の症状や治療法などについて、専門医の先生にお話をうかがいます。



聖隷横浜病院

竹下 宗徳先生

PROFILE

千葉大学大学院医学研究院修了後、君津中央病院医長を経て2016年より現職。日本整形外科学会専門医、日本人工関節学会認定医、医学博士。日本人工関節学会・日本骨折治療学会・日本関節病学会・日本股関節学会・日本骨粗鬆症学会。

# 変形性ひざ関節症

## 早期受診で多様な治療の選択肢

中高年になると悩まされるひざの痛み。原因となる病気は様々ですが、最も多いのが変形性ひざ関節症。早期に受診すると治療の選択肢は多く、近年では患者さん自身の血液を利用した再生療法が注目されています。そこで、この分野の専門医である聖隷横浜病院関節外科部長・人工関節センター長の竹下宗徳先生に、病態や治療法について聞きました。

**このひざの痛み……原因を知ることから治療は始まる**

ひざの病気には大きく分けると炎症性とそうでないものがあります。炎症性の中には偽痛風、リウマチ、化膿性関節炎などがあり、最も多いのが変形性ひざ関節症です。すり減った軟骨が滑膜を刺激して炎症と痛みをおこします。初期症状としては立ち上がり、歩きはじめなどに痛みを感じます。進行するとひざが腫れてきて、さらに悪化するようになります。この病気が進むようになると、この病気を抑えようとしていきまので、受診せず、自己流の手当てを続けていくと、患者さんにも少なからずあります。そして、ある間に病状がどんどん進み、筋肉が落ちて歩けなくなつてから受診される患者さんも多いです。しかし、湿布を貼るつもりで受診したタイミングで受診をおすすめします。

まず、痛い原因は何かをはっきりさせることが大事です。外来の際、患者さんがドアを開けて診察室に入ってきた姿勢やひざのぐらつき具合を見ると、どこに病気の原因があるのか推測できます。ご本人が長期間ひざが悪いとはかり思いこんでいたのが実は股関節や腰に原因があることが多かったケースも少なくありません。また、画像上の変化とご本人の症状は必ずしも一致するものではありません。こうした見極めがその後の治療に大きくかかわってきます。

従来からの治療・手術に加えて新たな治療法が話題に

治療には様々な選択肢があります。病気がさほど進行していない段階では、保存療法としない段階では、保存療法として

て、体重のコントロールや大腿四頭筋（太もも）を鍛える運動の指導、サポーターや足底板などの装着着用、生活様式の工夫（和式→ベッド・イスなど洋式）、ヒアルロン酸の関節内注射などさまざまな薬物療法、リハビリなどの実施を検討します。それらをおこなっても改善されない場合は、骨切り術か人工関節に置き換える手術を行います。

APS療法

保存療法と手術療法との間をつなぐ第3の治療法

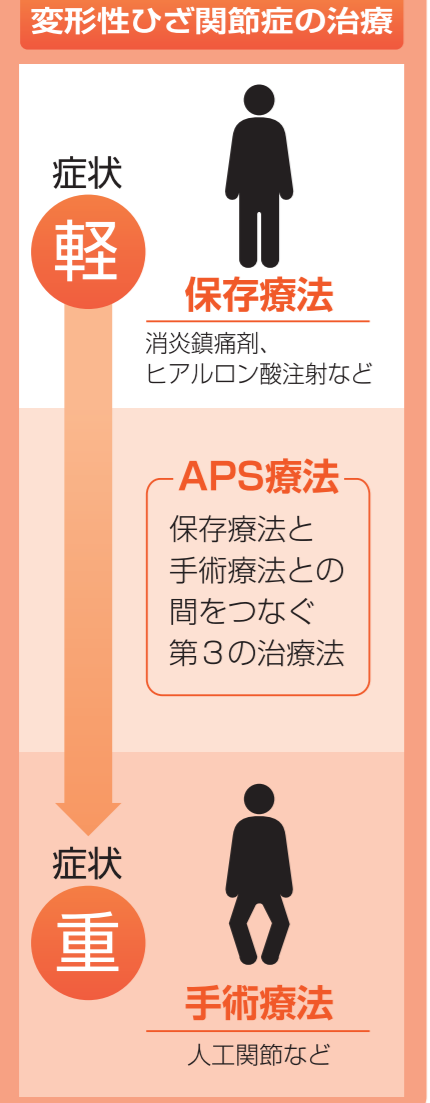
APS療法は「全置換術」、関節の部だけ傷んでいる場合は「部分置換術」を行います。痛みや腫れを取り除く効果にとっても優れており、安全性も確立している手術法ですが、一方で手術に對して心理的な抵抗が強い方もいらっしゃいます。

そこで近年、保存療法と手術の間をつなぐ第3の治療法として注目されているのが「APS療法」です。患者さん自身の血液から炎症を抑えるたんぱく質と関節

ひざの健康を取り戻して健康寿命を延ばそう

APS療法を受けられたある患者さんは登山が趣味で、治療を受けられたことで病状が改善し、日本各地の山に遠征に行かれています。また、85歳で人工関節の手術を受けた女性患者さんは5年間、手術を受けるかどうか悩んでいらつたが、結果的には「こんなに楽になるならもっと早く手術を受けなければよかった」と大変満足されています。

APS療法を受けられたある患者さんは登山が趣味で、治療を受けられたことで病状が改善し、日本各地の山に遠征に行かれています。また、85歳で人工関節の手術を受けた女性患者さんは5年間、手術を受けるかどうか悩んでいらつたが、結果的には「こんなに楽になるならもっと早く手術を受けなければよかった」と大変満足されています。



関節の悩みを相談できる  
整形外科専門施設を掲載しています

電話無料相談 0570-783855  
※通話料は通話者負担、相談料は無料です  
お気軽にお電話ください【平日10:00~17:00】

https://www.jinko-kansetsu.com/  
人工関節ドットコム 検索

